

令和6年度 第2回 北九州市社会教育委員会議

日時 令和6年11月7日（木） 10:00～12:00

場所 北九州市立生涯学習総合センター3階 ホール

1 総務市民局長挨拶

2 新委員紹介

3 報告事項

4 議題

（1）議長・副議長の互選について [資料1]

（2）北九州市生涯学習推進計画（令和5年度評価）について [資料2]

（3）次期北九州市生涯学習推進計画について [資料3]

資料1

議長・副議長の互選について

北九州市社会教育委員会議関連法規

社会教育法

(審議会等への諮問)

第13条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和二十三年法律第二十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議の意見を聴いて行わなければならない。

(社会教育委員の構成)

第15条 都道府県及び市町村に社会教育委員を置くことができる。

2 社会教育委員は、教育委員会が委嘱する。

(社会教育委員の職務)

第17条 社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- (1) 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- (2) 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
- (3) 前2号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。

2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。

3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。

(社会教育委員の委嘱の基準等)

第18条 社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定める。この場合において、社会教育委員の委嘱の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

社会教育委員及び公民館運営審議会の委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準を定める省令

(社会教育委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって参酌すべき基準)

第1条 社会教育法（昭和24年法律第207号。以下「法」という。）第18条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱することとする。

北九州市社会教育委員条例（平成27年7月3日公布、8月29日施行）

- 第1条 社会教育法(昭和24年法律第207号)第15条第1項の規定により、市に社会教育委員(以下「委員」という。)を置く。
- 第2条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから委嘱する。
- 第3条 委員の定数は、15人とする。
- 第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 第5条 委員は、その事情により、任期中であっても解嘱することができる。

北九州市社会教育委員会議規則

- 第1条 社会教育委員の会議には、委員の互選により、議長および副議長2人をおく。
- 第2条 議長および副議長の任期は1年とする。ただし、再選されることができる。
- 第3条 議長は、社会教育委員の会議を主宰する。
- 第4条 副議長は、議長を助け、議長に事故あるとき、または、議長が欠けたときは、その職務を行う。
- 第5条 委員の会議は、必要に応じて教育長がこれを招集する。
- 第6条 会議の招集は、開会の7日前までにこれを通知しなければならない。
- 第7条 教育長は、会議開催の日時、場所および会議に附議すべき事をあらかじめ通知しなければならない。
- 第8条 この規則に定めるもののほか、社会教育委員の会議に関し必要な事項は、別に定める。

付属機関及び市政運営上の会合の運営及び委員等の選任等に関する要綱

(付属機関の委員の候補者の選定における留意事項)

- 第4条 付属機関の委員の候補者の選定に当たっては、次に掲げる事項に留意するものとする。
- (2) 委員の兼職の数は、4を限度とすること。このため、委員の候補者の選定に当たっては、あらかじめ総務局総務課において多数兼務委員の状況を確認し、他の付属機関の委員を4以上兼ねる者を候補者として選定しないものとする。
- (3) 委員の在任期間は、最初に就任したときからの任期を通算して10年を限度とすること。

資料2

北九州市生涯学習推進計画 (令和5年度評価) について

北九州市生涯学習推進計画の評価について

(1) 基本的な考え方

令和3年度に策定した「北九州市生涯学習推進計画《“学びと活動の環”推進プラン》」（以下、現計画という。）に掲載された施策及び事務事業を対象として、「令和5年度」の進捗状況を、策定時に設定した指標等に基づいて、有効性などの視点から点検・評価し、施策及び事務事業の今後の推進に活用する。

(2) 評価の方法

ア 評価の実施範囲

【施策】 現計画を構成する3施策

【事務事業】 163事業（再掲事業を除く）

イ 評価の視点及び表示

(ア) 施策ごとの評価

指標の達成状況、モニタリング項目の推移及び施策の実績・成果・有効性、構成事務事業の進捗状況を踏まえ、評価する。

A：大変順調 B：順調 C：やや遅れ D：遅れ

※ 参考：施策の種類

柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり
柱2 「学び」と「活動」による人づくり
柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

(イ) 施策の指標評価

計画策定時に3施策ごとに指標及び令和7年度の目標値を設定。年度毎に、目標に向けて設定した参考値に対する達成率に基づき、4段階評価を行う。

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上）

C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

※ 指標については、今後、生涯学習を取り巻く社会状況の変化等が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うこととする。

※ 行政評価の評価基準とは異なる。

参考：行政評価の評価基準（成果指標の達成率を基準に評価）

原則として、120%以上「大変順調」、60%以上「順調」、

40%以上「やや遅れ」、40%未満「遅れ」

(ウ) 事務事業の進捗状況

各事務事業の実施状況、事業の有効性、効率性、前年度実績との比較等を総合的に判断して、次の4段階評価を行う（目標値等は設定していない）。

a：大変順調 b：順調 c：やや遅れ d：遅れ

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、評価できない場合は、評価欄に「－」を記載

北九州市生涯学習推進計画《”学びと活動の環”推進プラン》の体系と全体評価

計画の目標

基本方針

施策の柱

施策の全体評価

市民が学び、つどい、まちは輝く。学びと活動の環を広げよう。

- ①人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習社会づくり
- ②「学び」と「活動」が循環する生涯学習社会づくり
- ③ 多様な主体のネットワークによる生涯学習社会づくり
- ④子どもの成長への関わりを通して「家庭」や「地域」の力が高まる生涯学習社会づくり

施策の視点

- きっかけづくり
- 人づくり
- つながりづくり
- 地域づくり
- ネットワークづくり
- 多様性への対応
- 支援体制づくり
- 行財政改革

柱1
誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

- (1)「学び」と「活動」の情報提供の拡充
- (2)気軽に相談ができる体制づくり
- (3)多様な「学び」の機会の提供
- (4)「学び」と「活動」の場づくり

R4年度

B 順調

R5年度

B 順調

柱2
「学び」と「活動」による人づくり

- (1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成
- (2)「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成

C やや遅れ

C やや遅れ

柱3
「学び」と「活動」によるつながりづくり

- (1)「学び」と「活動」による仲間づくり
- (2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り
- (3)学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

B 順調

B 順調

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

1 全体評価

令和4年度	令和5年度	
B 順調	B 順調	(1) 指標では、市政モニターアンケートの「生涯学習の情報が取得できている人の割合」がR5年度は32.1%と前年度比6.3ポイント下がっている。一方で「過去1年間に学習活動した人の割合」は、R5年度は47.1%と前年度比14.5ポイント上がっている。「生涯学習関連施設の利用者数」は、前年度から48万人増加した。 (2) 「学習活動に満足している人の割合」は、R5年度は89.4%と前年度比4ポイント下がっている。 (3) モニタリング項目を見ると、障害のある人を対象としたスポーツ教室や講座の参加者が増加している。 (4) 人材マッチング事業実施件数は、R5年度は248件と前年度から約2倍の増加となっている。 (5) 事業評価表の個別事業については、概ね「大変順調」または「順調」である。 新型コロナウイルス感染症の5類移行後、学習活動が再開して活発化の傾向にあり、総体的には「B 順調」とした。今後は、「学び」と「活動」の循環をさらに推進し、地域活動やボランティア活動との人材マッチングを図っていく。

2 指標等

◎指標				現状値	参考					目標
R4 評価	R5 評価	指標		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
B	C	生涯学習の情報が取得できている人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			39.8%	42.3%	44.9%	47.4%	50%
			実績	37.2%	42.2%	45.1%	38.4%	32.1%		
			達成率			113.3%	90.8%	71.5%		
D	C	過去1年間に学習活動した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			59.5%	62.1%	64.8%	67.4%	70%
			実績	56.9%	48.9%	45.9%	32.6%	47.1%		
			達成率			77.1%	52.5%	72.7%		
A	B	学習活動に満足している人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			89.8%	91.1%	92.4%	93.7%	95%
			実績	88.5%	87.9%	75.5%	93.4%	89.4%		
			達成率			84.1%	102.5%	96.8%		
A	A	生涯学習関連施設の利用者数 《各施設所管課集計》	参考値			前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
			実績	14,033千人	6,238千人	7,546千人	11,187千人	11,667千人		
			達成率			121.0%	148.3%	104.3%		

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上） C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全18項目中  10項目  6項目  1項目  1項目

R4 推移	R5 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
→	↘	○生涯学習という言葉を知っている人の割合	95.5%	98.5%	98.5%	97.2%		
↘	↗	○まなびネットひまわりアクセス件数	13,502件	9,610件	8,859件	9,399件		
↗	↗	○いきがい活動ステーションの利用者数	1,042人	2,438人	5,531人	6,687人		
↗	↘	○生涯学習総合センター学習相談件数	12件	59件	183件	127件		
↗	↗	○市民カレッジ受講者数	529人	721人	1,115人	1,147人		
→	→	○市民カレッジ受講者の満足度	99.1%	99.0%	98.0%	98.0%		
↗	↘	○市立図書館（ひまわり文庫を除く）における市民一人当たりの貸出冊数	2.5冊	3.2冊	3.4冊	3.3冊		
↘	↗	○障害者芸術祭作品展の出展数	203点	260点	225点	268点		
↗	↗	○障害者スポーツ教室・障害者スポーツ大会の参加者数	775人	766人	1,293人	1,869人		
↘	↗	○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の開催回数	73回	72回	70回	82回		
→	↗	○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の参加人数	402人	610人	646人	767人		
→	↗	○外国人が日本語や日本の生活習慣を学ぶための地域の日本語教室の開催箇所数	17教室	17教室	17教室	19教室		
↗	↘	○生涯学習市民講座のうち「共生のまちづくり」を学習目標とした講座数	107講座	123講座	156講座	146講座		
↗	↘	○北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ各領域の履修生数	コロナにより受入を中止・延期	37人	48人	40人		
↘	—	○「本市は生涯にわたって自由に学び、その成果を活かした活動を行う環境が整っていると感じる」と回答した人の割合	63.3%	59.5%	55.1%	アンケート実施なし		
↗	↘	○人材バンク登録者数	223人	209人	224人	123人		
↗	↗	○人材バンク依頼件数	8件	9件	14人	23件		
↘	↗	○人材マッチング事業実施件数 ※R4からマッチング希望数ではなく、成立件数を計上することとし、R2、R3年度も成立件数に変更した。	37件	156件	123件	248件		

施策の柱 1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計 画 →				← 実 績 →				← 績 績 →				← 評 価 ・ 方 向 性 →			
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 （千円）	R5年度 決算額 （千円）	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
										実績値	実績値		実績値	実績値				
（1）「学び」と「活動」の 情報提供の拡充 ①「学び」と「活動」の 一元的な情報提供	①	1	「まなびネットひまわり」（管理運営）	総務市民局 生涯学習総合センター	ホームページ「まなびネットひまわり」を活用して、市内の生涯学習に関する学習機会や講師の情報等、様々な情報を一元的に提供し、生涯学習活動の促進を図る。	218 の一部	221 の一部	関係機関への情報提供の呼びかけや講師登録に対する問い合わせの対応を行った。	まなびネットひまわりへのアクセス数	8,859件	9,399件	過去1年間に生涯学習活動をした割合（生涯学習活動への参加率）	32.6%	47.1%	b:順調	HPへのアクセス数はR4年度の8,859件から増加し、生涯学習活動をした割合も増加しているため「順調」と判断。	学んだ成果を自ら活動に活かせるよう「いつでも・どこでも」学習から活動、活動から学びへの機会提供に努める。また、多くの方に利用していただけるように、広報を行う。	
		2	高齢者いきがい活動支援事業	保健福祉局 長寿社会対策課	高齢者の社会参加やいきがいづくりを促進するため、高齢者の参加しやすいボランティア・生涯学習情報等に関する情報の収集・提供等を行う。	8,834	8,834	H28年9月より小倉北区魚町へ移転した、いきがい活動ステーションにて実施	利用者数	5,531人	6,687人	利用者アンケート満足度	100.0%	100.0%	b:順調	R4年度に比べ利用者数が増加しており、アンケート結果（満足度）も良好であったため「順調」と判断。	スマホ講座や終活等、高齢者の新たな情報ニーズに対応するとともに、今後は就労支援機能の付加等を図りながら、高齢者の社会参加やいきがいづくりの推進を行う。	
	②	3	生涯学習総合センターだより「まいなび21」の発行（R6～生涯学習総合センター情報発信事業）	総務市民局 生涯学習総合センター	生涯学習総合センター主催事業や生涯学習関連情報等を掲載した市民向けの情報紙を発行する。	273	259	年4回（4月、7月、10月、1月）、14,000部発行。各区コミュニティ推進課等関係各課、市民センター、学校等に配布。	発行部数	14,000部	14,000部	年間発行回数	4回	4回	b:順調	時期、部数等計画通り、実施できているため「順調」と判断。	まいなび21は、R5年度（R6年4月1日号）をもって廃刊。R6年度からは、市民カレッジの内容を中心に毎月ニュースレター（1枚ペーパー）の発行を行う。	
（2）気軽に相談できる 体制づくり ①「学び」の相談体制づくり	①	4	生涯学習総合センター学習相談事業	総務市民局 生涯学習総合センター	施設ボランティアの協力のもと、学習相談コーナーを定期的に開設し、生涯学習に関する様々な相談にきめ細かく対応する。	予算措置なし	予算措置なし	毎週月・木の10時から16時（パソコン相談は毎週月の14時から15時30分）に実施。相談件数は、127件であった。	学習相談事業の相談件数（延べ相談者数）	183件	127件	相談者の相談内容に対する問題解決率	100.0%	100.0%	b:順調	R4年度の相談件数が多かったため、結果として進捗状況が悪化したように見えるが、令和3年度（59件）との比較では2倍以上の件数であることから、「順調」と判断。	件数の大半を占めるパソコン相談について、新たに各区コミュニティ推進課にもチラシを配置してもらい、相談件数の回復に努めている。	
（3）多様な「学び」の機会 の提供 ①「学び」のきっかけづくり	①	5	生涯学習市民講座の充実	総務市民局 生涯学習課	市民の学習活動を支援し、一人一人が健康で心豊かな生活を送り、個人のいきがいづくりや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、地域課題や社会的課題を解決するため、各市民センター等で幅広い分野にわたる講座を実施する。	9,784	8,966	市民講座数 891件 市民講座参加者数 97,014人	生涯学習市民講座数	901件	891件	生涯学習市民講座参加者数	85,836人	97,014人	a:大変順調	活動指標である市民講座数はR4年度並みであり、成果指標である市民講座参加者数は前年度比113%増であった。 以上のことから「大変順調」と判断。	より地域の特色を生かした講座、地域課題解決に向けた講座となるよう市民センター館長研修の充実を図り、多くの方に多様な学習機会を提供していく。 また市公式LINEによる市民センター情報の発信といった新たな取り組みも始めており、事業実施方法や情報発信については、市民センター館長・職員等研修を活用しながら引き続き検討していく。	
		①	6	北九州市民カレッジ事業	総務市民局 生涯学習総合センター	市民の多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、自己実現の促進及び「循環型生涯学習社会」を担う人材の育成を図る。	4,635	2,936	総合C：講座数26件（放送大コラボ講演含む）、受講者540人（内スポット109人） 西総合C：講座数26件、受講者607人（内スポット49人）	講座数	55件	52件	受講者数	1,115人	1,147人	b:順調	受講者数1,147人（内スポット158人）で前年度に比べ32人増となっており、「コロナの5類移行後受講者数も増えてきている。また、講座の満足度も98%と高い評価を得ていることから「順調」と判断。	時間帯や受講回数の見直し、スポット受講可能な講座を増やしていく。また、大学等と連携して、現代的課題に対応するテーマについて検討を行い、受講者層の幅を広げていく。
	①	7	北九州ひとみらいブレイスの充実	総務市民局 八幡西生涯学習総合センター	各施設の特徴や専門性を生かし、子供から高齢者まで、年齢、国籍、文化、障害の有無を問わず、若者成長の支援、あらゆる世代の学びの充実、さまざまな団体の活動支援、すべての市民の交流促進に取り組む、幅広い人づくりを支援する。	3,224	3,013	1 人づくり支援事業 グローバル人材育成事業 パネル展を除き、4事業実施、参加者計514名 2 連携事業「気ままにセミナー」10講座実施、受講者数213名 3 にぎわい創出事業「ひとみらい交流マンス」 期間 R5年10月1日～R5年11月12日 参加者 29,436名（関連事業含む）	北九州ひとみらいブレイス11施設の集客人数	70万人	87万人	北九州ひとみらいブレイスで実施する講座、セミナー等の満足度	96.5%	98.9%	b:順調		コロナ禍の影響で大きく減少していた11施設の集客人数は、年々回復傾向にある。 R4年度同様、これまでの「ひとみらい交流ウィーク」を「ひとみらい交流マンス」として事業期間を拡大し、各施設で集中して事業を実施するとともに、構成施設が共同で行う事業にも着手した。集客状況は前年度と比べ減少したもの、施設間の連携強化を図りにぎわい創出に繋げることができた。 さらに、講座・セミナー等の満足度については、高水準を維持していることから「順調」と判断。	ひとみらいブレイス構成施設間の連携強化を図り、多様な層の参加・交流促進に繋がる事業を検討し、引き続きひとみらいブレイスの認知度向上に努める。
								ひとみらい交流マンス集客状況（にぎわい創出事業）	3万3千人	2万9千人								
①	8	年長者研修大学校（周望学舎・穴生学舎）	保健福祉局 長寿社会対策課	高齢者に対して教養、健康、レクリエーション等の研修の場を提供することにより、高齢者の生きがいづくり、健康づくり及び社会活動の促進を図る。修了生の組織でボランティア活動を実施する。	145,374	140,047	R5年度受講者数：775人	年間コース実施数	30件	30件	総合的な満足度	97.4%	97.8%	b:順調	コロナ禍以前に比べて受講者数が少ない状況が続いているが、アンケートによる総合評価が良好であったため「順調」と判断。	地域活動を担う人材育成の場としての機能強化と、新たに就労支援やDX等の取組みを進めていくとともに、他部局事業との連携強化を図る。		
								年間コース受講者数	785人	775人								

施策の柱 1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計 画 →		← 実 績 →		績		→		← 評 価 ・ 方 向 性 →							
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 （千円）	R5年度 決算額 （千円）	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
										実績値	実績値		実績値	実績値				
②ライフステージや多様性に 応じた学習機会の 提供・充実	①	9	ESD推進事業	環境局 環境学習課	持続可能な社会の実現に向けて、産学官民の多様な主体から成る「北九州ESD協議会」をプラットフォームとして、環境はもとより人権・平和など幅広い視野から総合的に取り組む人材の育成を図る。 【ESD＝持続可能な開発のための教育】	19,913	18,889	新型コロナウイルス感染状況に応じて、対面やオンラインを活用し開催方法を工夫しながら、「ESDツキイチの集い」や「韓国スタディツアー」「交流会イベント」等の事業を積極的に実施した。 また、「ESD出前講座」を市民センターや小中学校に積極的にアピールしたことで94講座も実施し、受講者にとって学びの機会の創出につなげることができた。	活動団体登録数	93団体	95団体	アンケート調査における「持続可能な社会づくり」を意識している市民の割合	83.4%	91.2%	b:順調	「北九州ESDアクションプラン2021～2025」で定められているチーム活動推進事業を中心に、コロナ禍で十分に行えなかった交流の活発化を図った。 また、様々な主体との協働により、これまでの活動の更なる推進を図ったことにより、「持続可能な社会づくり」を意識する市民の割合増加につながったため、「順調」と判断。	北九州ESD協議会事務局の移転に伴い、事務局の体制や機能などについて検討する必要がある。 また、引き続き様々なステークホルダーとの協働により、ESD活動の普及・推進を図る。	
	①	10	デジタル活用講座	デジタル市役所推進室 DX推進課	社会のデジタル化が進展する一方、2020年市民調査では約25%の市民がインターネットを利用していない状況であり、インターネット未利用理由で上位の「機器操作が難しい」等の課題に対応するため、高齢者等、スマートフォン等の操作に不慣れな方がスマートフォン等の操作にチャレンジするための第一歩となるような講座を市民センターと連携して実施する。	62,400	53,442	市民センターにて、スマートフォンの操作に不慣れな方を対象に、スマートフォンの基本操作等を体験する「デジタル活用講座」を実施。（146施設、1講座（全4回）×311講座の合計1,244回開催（実施）。受講人数は延べ14,982人。）	講座の実施	30回	1,244回	市民のインターネット利用率 （5年に1回の調査） ※ 直近の調査はR2年度で75.0%			a:大変順調	文科省の補助金を活用し、大幅に拡充して実施することができ、より多くの高齢者等、スマートフォンの操作に不慣れな方に受講いただけたため、「大変順調」と判断。	今後も継続的に講座を実施し、市民のデジタル活用へのきっかけづくりに努める。	
	②-1	11	育児サークル・フリースペース活動への支援	子ども家庭局 こども若者育成課	乳幼児の親同士が交流を通じて、自主的な活動を行えるよう育児サークルを支援する。また、自由に参加・利用できるフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援する。	5,861	5,764	育児サークル及びフリースペースの活動を支援するとともに、地域で子育てをしやすいシステムづくり、仲間づくりを支援した。	子育てに関わる団体等への補助件数	110件	119件	市内で活動する育児サークル等の団体数	437団体	438団体	b:順調	子育てに関わる団体への補助件数は9件増加した。前年度とほぼ同数の団体で活動が継続されていることから、「順調」と判断。	子育てに関わる団体の自主的活動を活発化させるため、支援内容について、継続的に検討していく。 また、コーディネーターの配置により団体同士の横の繋がりの構築、親子ふれあいルーム等との連携を図る。	
	②-1	12	親子ふれあいルーム運営事業	子ども家庭局 こども若者育成課	子育て中の親と子が気軽に集い、相互に交流を図る場である親子ふれあいルームを運営し、施設の充実や利用日の拡大、相談対応の充実などの機能強化を図る。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と連携し、ネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組む。	38,607	37,961	親子ふれあいルームを運営し、施設の充実、相談対応の充実などの機能強化を図った。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体等と連携し、ネットワーク化を図り、地域における子育て支援に取り組んだ。	親子ふれあいルーム実施箇所数	16ヶ所	区役所等7カ所 児童館9カ所	親子ふれあいルーム利用者数（乳幼児数）	21,134人	31,779人	a:大変順調	利用者数（乳幼児数）が前年度比150.3%となり、乳幼児を持つ保護者の交流や、子育てへの負担軽減に寄与していることから、「大変順調」と判断。	親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修の実施など更なる取り組みを検討していく。	
	②-2	13	青少年体験活動の啓発・広報の推進	子ども家庭局 こども若者育成課	市や市民団体・NPO団体等が実施している青少年体験活動についての情報発信を行う。	12,000の一部	12,592の一部	・掲載月の拡張（夏号→7月～10月）（冬号→11月～3月） ・キッズチャレンジの発行（年2回） ・市内小学校全校配布 他 ・1回50,000部 作成	キッズチャレンジの発行	2回	2回	事業掲載団体数および事業数	（夏号）14団体26事業 （冬号）19団体32事業	（夏号）13団体30事業 （冬号）13団体35事業	a:大変順調	体験活動情報誌「キッズチャレンジ2023」では夏休み及び冬休み期間に特化した各団体のイベント情報を掲載し、大変好評いただいた。 また、R5年度より掲載月枠を夏号・冬号それぞれ、ひと月ずつ拡張し、より多くの事業を発信できたことから、「大変順調」と判断。	次世代を担う青少年が社会とのかかわりを自覚しながら、自己を確立・向上していけるよう、青少年育成団体等と一層の連携を図り、青少年の体験活動の機会や場の創出に努める。	
	②-3	14	北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ	政策局 総務課	当カレッジのためにデザインされた必修科目と、大学の多彩な科目の中から学生と一緒に学べる科目等を選択できるプログラムを提供し、社会人の学び直しを支援する。	大学の予算事業のため予算措置なし	大学の予算事業のため予算措置なし	「学問と人生」、「地域創生」、「こころの科学」、「多様な世界との対話」、「社会人のためのデータサイエンス基礎」の5つの領域を開講した。	i-Designコミュニティカレッジの実施	履修生数48名	履修生数40名					a:大変順調	一定数の履修生数を得ており、R5年度修了生の満足度は100%と高い評価を得ているため「大変順調」と判断。	引き続き、「学問と人生」、「地域創生」、「こころの科学」、「多様な世界との対話」、「社会人のためのデータサイエンス基礎」の5つの領域を開講する。なお、「こころの科学」領域においては、従来の夜間開講に加え、新たに昼間にも開講し、昼夜開講とする。次年度へ向けて、広報活動を幅広く行い、より多くの履修生受入れを目指す。
	②-5	15	日本語教育体制整備事業	政策局 国際政策課	日本語でのコミュニケーションが困難な外国人市民のために、日本語教室を運営するとともに、市内で日本語教室を運営しているボランティアグループ（13団体）との連携や、助成金の交付、広報協力、スキルアップ研修などを実施することで、日本人と外国人の相互理解および学習機会の充実を図る。	35,647の一部	35,647の一部	（公財）北九州国際交流協会において学習者のニーズに合わせた4つの日本語教室や交流会を運営するとともに、市内で日本語教室を運営している15のボランティア教室・団体に対し助成金の交付や意見交換会等を実施した。また、日本語教室の空白地域であった門司区で新たな教室を開設し、12月まで月1回程度の勉強会を実施するなど、日本語教育の推進に多角的に取り組んだ。	日本語教育に関する事業の実施 ※（公財）北九州国際交流協会が主催する日本語教室数	4教室	4教室	（公財）北九州国際交流協会が主催する日本語教室開催実績	221回	134回	a:大変順調	学習者の利便性を第一に考え、教室への移動などが不要となるオンラインを活用した授業を実施しているが、日本語能力向上や、参加者がより受講しやすい日程とするため教室を再編成したことが原因であり、学習者の年齢や習熟度に合わせた質の高い教室運営を継続していることから、「大変順調」と判断。	（公財）北九州国際交流協会主催の日本語教室の円滑な運営に加え、地域の日本語教室への運営支援を継続する。 また、学習者に対してさらに効果的な日本語教育を提供するため、教室の再編成について検討する。	

施策の柱 1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計 画 →				← 実 績 →				← 績 績 →				← 評 価 ・ 方 向 性 →			
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 （千円）	R5年度 決算額 （千円）	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
										実績値	実績値		実績値	実績値				
③現代的・社会的な課題 の解決に向けた学習機 会の提供・充実	②-5	16	社会参加講座開催事業 （障害者福祉会館の 指定管理事業の一部）	保健福祉局 障害福祉企画課	障害のある人の日常生活に役立つ知識の 習得や、社会参加の促進を図る。	174,184 の一部	1,658	講座の人数制限を廃止し、昨年 度よりさらに講座開催回数を増や すことで、参加者数が大幅に増加 した。	講座開催回数	70回	82回	講座開催回数	70回	82回	b:順調	アンケート結果では、講座内容 について「良い」「だいたい良 い」と回答した利用者が97.8%と 高い水準を維持しているため「順 調」と判断。	引き続き、障害のある人の自立 の援助や生きがいを高める講座を 開催していく。また、アンケート 等を元に講座内容を精査し、ニー ズに基づいた講座実施に努める。	
								参加者数	646人	767人	参加者数	646人	767人					
	②-5	17	障害者スポーツ教室 等開催事業	保健福祉局 障害福祉企画課	障害のある人がスポーツを通じて体力の 維持・増強、機能回復を図る。	54,490 の一部	2,360	昨年度よりも多くの場所で巡回 スポーツ教室を行うことが出来た ため、より多くの方に参加してい ただくことが出来た。	障害者スポーツ教室 等 開催回数	74回	81回	障害者スポーツ教室 等 参加者数	1,138人	1,622人	b:順調	障害者スポーツ教室等の開催回 数、参加者数ともに昨年度の実績 を上回ることが出来たため「順 調」と判断。	関係団体と連携を図り、事業の 周知や参加者数の拡大を図る。	
	②-5	18	北九州市障害者芸術 祭	保健福祉局 障害福祉企画課	障害のある人の芸術・文化活動への参加 を通じて、本人の生きがいや自信を創出 し、社会参加を推進するため、北九州市障 害者芸術祭（ステージイベント、作品展） を開催する。	8,155 の一部	2,400	昨年度に引き続き、ふれあい フェスタ2024と合同開催で実施し た。	障害者芸術祭の開催	有	有	障害者芸術祭 出展数	225点	263点	b:順調	作品展において、昨年度よりも 多くの出展数があったため「順 調」と判断。	関係団体と連携を図り、事業の 周知や出展数の拡大を図る。	
											障害者芸術祭 来場者数	1,300人	1,537人					
	②-5	19	多様性が輝く地域へ 「心のバリアフ リー」事業 【R5年度終了】	総務市民局 生涯学習課	地域全体で「心のバリア」をなくし、相 互理解を深めていくため、障害のある人や 国籍・言語の違う人などと住民が共生した 地域づくりを目指す。	1,000	582	実施数 9館 参加者数 のべ1,238人				参加者数	5,421人	1,238人	c:やや遅 れ	当初の実施予定数に及ばず参加 者数は減少したため「やや遅れ」 と判断。 一方で、実施をきっかけに障害 のある人・外国人住民等と地域住 民が、ともに認め合い活力ある地 域づくりを行うことができた。	事業はR5年度（R4年度から2年 間）で終了したが、事業を実施し たセンターでは、そのノウハウを 生かした市民講座運営等に継続し て取り組む。	
	③-1	20	人権市民講座	教育委員会 企画調整課	人権問題に関する市民の正しい理解と認 識を深めるため、市民センターにおいて人 権学習を推進する。	10,888 の一部	8,492 の一部	市民センターで実施	人権市民講座 実施回数	356回	370回	人権市民講座 参加者数	10,530人	11,533 人	c:やや遅 れ	実施回数は目標値を上回ったが 参加者数が下回っているため「や や遅れ」と判断。	市民が親しみやすい人権市民講 座を開催できるよう題材や学習内 容、方法など工夫を行う。	
	③-3	21	企業や地域等での ワーク・ライフ・バ ランスの取り組み支 援	総務市民局 女性の輝く社会推進 室	企業等の事業者に対して、仕事と子育て 等との両立への理解促進や働きやすい職場 環境づくりを働きかける。 また、毎年11月をワーク・ライフ・バラ ンス推進月間とし、その意義や必要性を企 業等事業者や市民に周知する。	6,911	3,069	北九州市女性活躍・ワークライフ バランス表彰受賞者数（累計）： 90社 ワーク・ライフ・バランス推進に 関する企業へのアドバイザー等の 派遣：27回	北九州市女性活躍・ ワークライフバランス 表彰受賞者数（累 積） ワーク・ライフ・バ ランス推進に関する 企業へのアドバイ ザー等の派遣回数	86社 （人） 26回	90社 27回	仕事と生活の調和が 図られていると感じ る人の割合	62.7%	62.7%	b:順調	女性活躍・ワークライフバラ ンス表彰では新たに4社が受賞し、 累計が90社となった。 また、女性活躍やワークライフ バランスの推進に取り組む企業へ のアドバイザー派遣、各種セミ ナー開催などの支援について、申 込件数はR4年度とほぼ同程度であ り、これから取り組もうとする企 業の参考になるよう、市内の様々 な業種の企業の先進的な取組事例 をホームページで紹介するなど、 周知方法を工夫しながら実施す ることができた。加えて、仕事と生 活の調和が図られていると感じる 人の割合は、令和元年度に近い水 準を維持しているため、「順調」 と判断。	企業については、仕事と生活の 調和が図られていると感じる人の 割合が今後さらに上昇していくよ う、引き続き、各種支援を通じて 意識改革を一層推進していく。ま た、事業の実施にあたっては、企 業のニーズを踏まえ、効率的・効 果的な事業実施を検討していく。	
③-4	22	読み聞かせ・読書ボ ランティア養成講座	教育委員会 子ども図書館	読書を通して、子どもの豊かな感性を育 むため、読み聞かせなどが行えるボラン ティアの育成を図る。	311	250	R5年度は、募集人数を増やし4 講座（11回）開催した。	読み聞かせボラン ティア養成講座の 開催数	4回	4回	読み聞かせボラン ティア養成講座の 受講者数	73人	170人	a:大変順 調	講座はほぼ例年通りの回数が実 施でき、受講者数も大きく増加し たため「大変順調」と判断。	読書をする子どもを増やすに は、大人の協力は欠かせない。子 どもが読書活動に親しみ、読書の 大切さを知ることができるよう、 力強く支える大人を増やし、市立 図書館や学校など市内で活動し ている読み聞かせボランティアなど 読書に係るボランティアの育成、 連携支援に取り組む。		
③-6	23	・DIG（住民参加型 災害図上訓練） ・HUG（避難所運営 ゲーム）	危機管理室 危機管理課	DIG（ディグ）は、参加者が自分たちの 住むまちの地図を囲み、書き込みを行いな がら議論することで、わがまちに起こりう る災害像をより具体的にイメージできる訓 練。 HUG（ハグ）は、避難所に見立てた模造 紙や避難者に見立てたカードなどを活用 し、参加者がプレイヤーとなり、避難所で 起こる様々な出来事に対してゲーム感覚で 避難所の運営を学ぶ訓練。	914	355	市民からの申し込みにより、 ・DIG 16回実施し、951人が参加 した。 ・HUG 7回実施し、273人が参加 した。	訓練参加人数	DIG 606人 HUG 558人	DIG 951人 HUG 273人	訓練参加人数	DIG 606人 HUG 558人	DIG 951人 HUG 273人	b:順調	R4年度の訓練参加人数より増加 しているため「順調」と判断。 R4 1,164人 R5 1,224人（60人の増加）	市のホームページの更新やSNS での広報等を通じ、DIG及びHUGの 実施について周知を図っている。 また、出前講演等の機会を捉え て、引き続き広く市民に参加を呼 び掛ける。		

施策の柱 1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

			← 計 画 →				← 実 績 →				← 績 績 →				← 評 価 ・ 方 向 性 →			
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 （千円）	R5年度 決算額 （千円）	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性	
										実績値	実績値		実績値	実績値				
④生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実	④	24	学びから活動への仕組みづくり	総務市民局 生涯学習総合センター	行政や大学など様々な学習の場で、学んだ人にアンケートを行い、「学んだ成果を活動に活かしたい」と答えた人を、市民センターや市民活動推進課、ボランティア・市民活動センターを通じて、活動を行っている団体（自治会・まちづくり協議会、NPO、ボランティア等）へとつなぐ事業を実施する。	予算措置 なし	予算措置 なし	マッチング成功件数は、市民センター主催講座231件、市民カレッジ主催講座15件、その他（ボランティア養成講座、九州共立大学）2件の計248件であった。				活動希望者のうち、活動の場へつなぐことができた割合	25.5%	15.2%	b:順調	成果指標の実績値は10%以上減少したが、件数は前年度の122件から248件と2倍以上になっている。マッチングには結びつかなかったものの希望者が増加しており、地域活動への関心が高まっていると思われる。 以上から、「順調」と判断。	市民カレッジ主催講座からの成功件数が少ない。これまで、高等教育機関等連携コースでは、一部の講座しかアンケートを実施しなかったが、今年度からはすべての講座でアンケートを行える環境を整備する。	
	④	25	巡る！学ぶ！描く！子どものための地域の魅力体感・発信事業 【R5単年度事業】	教育委員会 企画調整課	市制60周年事業として実施。対象施設で特典を受けられる期間を、従来の夏休み期間に加えて、冬休み期間も実施することで、施設を「巡る」きっかけを増やし、地域の魅力を「学ぶ」機会を提供する。 また、お絵かきコンテストを開催し表彰することで、子どもたちに学びを「描く」機会を提供する。	10,100	9,161	市制60周年事業として、夏休み期間と冬休み期間に、文化施設など様々な施設で特典を受けられるパスポートをこどもたちに配付した。更に、施設で学んだことなどを表現するお絵かきコンテストを開催し、こどもたちの学びを深める機会を提供した。						b:順調	期間中に延べ88,534人（対象の57.2%）が利用した。 開催期間に冬休みを加えたことで、パスポートの利用率を上げる事が出来た。 以上のことから「順調」と判断。	パスポートのペーパーレス化など、引き続き同様の事業が提供できるよう工夫を行う。		
(4) 学びと活動の場づくり ①学んだ成果を生かす仕組み	①	26	「まなびネットひまわり」（講師登録及び依頼）	総務市民局 生涯学習総合センター	「まなびネットひまわり」の機能である講師登録及び、講師を依頼したい人と登録講師とのマッチングをすることで「学び」と「活動」の循環を目指す。	218 の一部	221 の一部	講師依頼に対するマッチングを行うとともに、すでに登録している講師に対し、継続して講師が可能か確認を行った。	まなびネットひまわりへのアクセス数	8,859件	9,399件	過去1年間に生涯学習活動をした割合 （生涯学習活動への参加率）	32.6%	47.1%	b:順調	依頼件数はR4の14件から増加し、生涯学習活動をした割合も増加しているため「順調」と判断。	登録した講師の活用及び講師登録の増加を図るため、様々な機会を捉えて周知する。	
	①	27	市民センタークラブ	総務市民局 生涯学習課	生涯学習市民講座終了後、さらに継続的な学習を希望する人々で作られたクラブや自主的なサークル活動からスタートしたクラブ活動を支援、促進する。	予算措置 なし	予算措置 なし	クラブ登録数 4,083 （R6.4.1現在）				地域社会の発展に向けた貢献	100.0%	100.0%	b:順調	市民センタークラブ数は部員の高齢化などでクラブ数も減少している中、円滑なクラブの運営のため、活動要項の見直しについて検討を行う。		
	②	28	美術館企画展充実事業	都市ブランド創造局 美術館	美術館において、多彩で魅力ある展覧会を開催し、本市の美術・文化の振興を積極的に推進する。	118,088	154,190	「ミュージアムツアー」事業と連携し、来館者の年齢層や個人・家族等の来館者の変化に合わせた企画展を実施し、SNS等を使用した広報を行った。	展覧会開催回数	83回	114回	美術館入館者数	187,097 人	138,767 人	c:やや遅れ	展覧会開催数は増加したが、入館者数が減少したため、「やや遅れ」と判断。	来館者のニーズに合わせた企画展やイベントを研究・実施するとともに、SNS等を使用した効果的なPRを行い、来館者数の増加につなげる。	
	②	29	博物館企画展・特別展充実事業	都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館	入館者の増加につながる、魅力ある大型特別展を開催し、さらなる賑わいの創出を図る。	55,570	54,412	「恋するいきもの展」や「なつかしい暮らしの道具展」など特別展5回 「北九州市制施行60周年記念 北九州市の誕生とその時代」など企画展15回を実施した	企画展・特別展入館者数	156,568 人	131,469 人	博物館総入館数	402,819 人	431,278 人	b:順調	R5年3月と12月に常設展をリニューアルし、さらに魅力ある博物館としてPRした。その結果、R4年度の入館者数に比べ、増加したことから「順調」と判断。	今後もより魅力ある展示、特別展を開催するとともに、国内外の観光客等の誘致に向け、ホームページを改訂するなど、効果的な広報PRを行うことにより、来館者の増加を目指す。	
	②	30	平和のまちミュージアムの運営	総務市民局 平和のまちミュージアム事務局	戦争被害、戦時下の人々の暮らし等に関する資料の収集、保存、展示等を行うこと等により、戦争の悲惨さを伝え、もって市民が平和の大切さや命の尊さを考えるきっかけとする。	39,185	40,691	「北九州市平和のまちミュージアム」の円滑な運営に努め、様々な企画展やイベントの開催等によりミュージアムの周知、来場促進を図った。	利用者数	31,991人	21,230人	利用者数	31,991人	21,230人	c:やや遅れ	企画展や講演会の開催、戦跡バスツアーや市民センターとの連携講座等、来場促進に向け様々な取組を実施しているが、年間来館者数が当初の目標を下回っており、「やや遅れ」と判断。	平和のまちミュージアムへの更なる来館者増を図るため、引き続き集客力のある企画展・イベント等を実施するとともに、学校や地域と連携し、平和学習の拠点施設としての機能向上を図る。	
	②	31	北九州市科学館スペースLABO運営経費	都市ブランド創造局 科学館	北九州市科学館スペースLABOを魅力ある施設として運営することにより、将来を担う技術系人材の育成を図るとともに、修学旅行生や観光客を呼び込むことで、東田地区全体の賑わいに寄与する。	510,123	472,889	将来を担う技術系人材の育成や東田地区全体の賑わいに寄与するため、常設展及びプラネタリウムの運営に加え、教育普及講座や特別企画展等を実施した。	入館者数	510,063 人	398,883 人	入館者数	510,063 人	398,883 人	b:順調	常設展やプラネタリウムを中心に約40万人の来館者数を確保した一方、未来の人材育成に資するクラブ活動、講座等参加者は63,702人で目標を上回る成果を上げており「順調」と判断。	引き続き、施設の利用促進を図るとともに、未来の人材育成に資する事業の実施に努める。	
	②	32	折尾まちづくり記念館の運営	総務市民局 地域振興課	折尾のまちづくりの歴史に関する情報の収集及び提供を行うとともに、住民等の交流及び自主的活動の場を提供することにより、折尾のまちづくりを推進する。	17,510	17,510	【指定管理】 開館以降、利用者や満足度は継続して高く、地域の方を中心に多く活用されている。 また、近隣の教育機関と連携したイベントの実施を行うなど、主催事業にも力を入れており、幅広い世代の利用促進に繋がった。	イベント開催回数	56回	95回	入館者数	107,553 人	143,274 人	b:順調	折尾のまちづくりの歴史に関する資料の収集数や交流イベントの開催数など目標値を上回っているため「順調」と判断。	施設の利用者数については、開館以降順調に増えており、順調であるが、減免での利用が多いため、民間の利用向上につながるよう検討する。	

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

1 全体評価

令和4年度	令和5年度	
C やや遅れ	C やや遅れ	(1) 指標では、「ボランティア登録人数」がR3年度から増加し続けている。「地域活動に参加した人の割合」は29.7%と前年度比0.5%上がっている。 (2) その反面、「『学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい』と回答した人の割合」は、81.8%と前年度比13.8ポイント下がっている。 (3) 「『地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる』と回答した人の割合」については、R5年度の市政モニターアンケートがなかった（R6年度はアンケート実施予定）。 (4) モニタリング項目を見ると、子育てサポーター、ボランティア大学校の研修の受講者数等は増加しているが、前年度から人数等が減少している項目がある。 (5) 事業評価表の個別事業については、概ね「大変順調」または「順調」である。 ボランティア活動に関して、登録人数が増加している。しかし、学習成果を社会に生かしたいかについては減少が見られる。また、地域活動に参加した人の割合も目標に達していないことから、総体的には「C やや遅れ」とした。 今後は、さらに人材の育成及び活動の機会の創出に努め、各事業において、地域や社会への関心が高められるよう図っていく。

2 指標等

◎指標

				現状値	参考					目標
R4 評価	R5 評価	指標		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
A	A	ボランティア登録人数 《所管課集計》	参考値			前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上
			実績	22,858	19,497	17,075	18,320	18,479		
			達成率			87.6%	107.3%	100.9%		
D	D	地域活動に参加した人の割合 《市民アンケート調査》	参考値			46.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50%
			実績	42.1%	33.9%	32.0%	29.2%	29.7%		
			達成率			69.6%	58.4%	59.4%		
A	C	「学習成果を地域活動やボランティア活動など社会に貢献したい」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			87.7%	89.5%	91.4%	93.2%	95%
			実績	85.9%	81.7%	93.5%	95.6%	81.8%		
			達成率			106.6%	106.8%	89.5%		
C	—	「地域活動のリーダーやボランティアが増加していると感じる」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			34.5%	38.4%	42.2%	46.1%	50%
			実績	30.6%	37.5%	30.1%	32.4%	アンケート実施なし		
			達成率			87.2%	84.4%	—		

A：大変順調（100%以上） B：順調（90%以上） C：やや遅れ（70%以上） D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全 12 項目中  8 項目  3 項目  1 項目  0 項目

R4 推移	R5 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		○ボランティア大学校の研修の受講者数	2,174人	1,781人	1,853人	1,956人		
		○地域防災の新たな担い手を育成した人数	75人	104人	130人	96人		
		○新しく健康づくり推進員になった人数	コロナにより養成講座中止	99人	28人	25人		
		○子育てサポーター登録者数	1,425人	1,508人	1,493人	1,549人		
		○子育てサポーターリーダー配置割合	68.5%	73.0%	73.0%	75.4%		
		○新規設立NPO法人数	12法人	14法人	11法人	10法人		
		○ボランティア登録団体数	616団体	537団体	583団体	616団体		
		○地域づくりのリーダー育成につながるセミナー受講者数（合計）	21人	46人	26人	41人		
		地域力アップセミナー 受講者数	21人	20人	16人	17人		
		女性リーダー国内研修 受講者数	0人	13人	0人	11人		
		生涯学習指導者育成セミナー 受講者数	コロナにより中止	13人	10人	13人		
		○年長者大学校修了生の地域活動への参加状況	50.0%	48.4%	50.0%	54.0%		
		○生涯学習推進コーディネーター配置割合	46.2%	50.8%	36.9%	36.9%		
		○ボランティアコーディネーターによるコーディネートした件数	2,150件	2,690件	4,386件	4,801件		
		○新しく地域学校協働活動推進員（旧地域コーディネーター）になった人数	38人	10人	23人	36人		

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

			計 画				実 績								← 評 価 ・ 方 向 性 →		
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 (千円)	R5年度 決算額 (千円)	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
										実績値	実績値		実績値	実績値			
(1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成 ①地域ボランティアの発掘・育成	①	33	社会福祉ボランティア大学校運営事業 (R6～地域福祉ボランティア研修事業)	保健福祉局 地域福祉推進課	地域ニーズに対応した研修内容の充実、研修機会の拡大に努め、地域福祉やボランティア活動を担う人材の養成を行う。	30,936	30,934	ニーズ・関心の高まっている「新たな福祉課題」に対応するためのボランティアの養成や、活動者の資質向上を図るための取組を進めた。	ボランティア大学校の研修・講習の開催回数	39回	39回	ボランティア大学校の研修の受講者数 (単年度)	1,853人	1,956人	b:順調	行政やNPO団体など、参加者間の情報共有と横のつながりを深めるため、様々な団体を対象とする研修を実施し、地域活動推進のためのプラットフォームの構築に努めた。また、講座の受講者をボランティア活動に繋げるなどの成果もあったことから「順調」と判断。	ボランティア活動者に対する研修の実施だけでなく、ニーズや関心の高いテーマについて引き続き検討し、展開していく。
	①	34	ボランティア活動促進事業	保健福祉局 地域福祉推進課	地域福祉の振興を図るため、北九州市社会福祉協議会が実施しているボランティアの育成、コーディネート、活動支援、関係機関との連携による情報収集・発信等のボランティア活動促進事業に対して補助している。	30,858	30,858	若者の自立支援機関と連携し、社会に踏み出したいと考えている若者に対してボランティア活動への参加機会を提供した。	ボランティア活動に関する相談件数 夏ボランティア体験学習の参加者数	36,705件 16人	35,986件 33人	ボランティア登録団体数 ボランティア登録人数	583団体 18,320人	616団体 18,479人	b:順調	継続的なボランティアの啓発や活動支援により、ボランティア登録団体及びボランティア人口は増加している。また、様々な講座の開催、ボランティアの育成、コーディネート等の活動支援に効果があったものと考えられるため「順調」と判断。	今後も引き続き、ボランティアや市民の活動に対し、支援を継続していくとともに、地域の高齢化・担い手不足に対応していくため、新たなボランティア活動者の掘り起こしを行う。
	①	35	NPO・市民活動促進事業	総務市民局 市民活動推進課	市民主体のまちづくりを推進するため、市民活動サポートセンターを拠点として、NPO・市民活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、講座の開催、NPO法人設立・運営支援などを行う。	17,434	15,890	サポートセンターの利用者数は回復基調にあり、講座については、引き続きオンライン参加も可能なハイブリッド型として講座実施の維持に努めた。	講座実施数	14件	16件	新規設立NPO法人数 (累計)	11法人	10法人	c:やや遅れ	新規設立NPO法人数は順調に推移するも、サポートセンターの利用者数が目標である2万人を下回っていることから、「やや遅れ」と判断。	市民活動を促進する講座の実施や情報提供の充実を図っていく。
	①	36	みんな de Bousai まちづくり人材育成事業	危機管理室 危機管理課	大学と協働し、防災科目を新設するなど、市内の大学生を対象に、防災教育を実施し、学生自身が災害時に主体的に判断し行動できる知識を身につけ、地域コミュニティにおいて新たな地域防災の担い手として活動できる人材を育成する。	10,724の一部	9,437の一部	R5年度の、北九州市立大学の防災科目履修者は96名。東京大学特任教授である片田敏孝氏を講師とした公開講座を対面方式で実施した。	地域防災の新たな担い手を育成した人数	130人	96人	地域防災の新たな担い手を育成した人数	130人	96人	a:大変順調	R4年度に引き続き、防災科目履修生が96名と目標値である60名を超え達成したため「大変順調」と判断。	今後も地域防災を担う新たな人材育成をするため、大学と協議し事業を継続していく。
	①	37	子育てネットワークの充実	総務市民局 生涯学習課	子育て中の親子を温かく迎え入れ、身近な相談相手になるとともに、親子同士をつなぎ、親子の成長を地域で見守る環境づくりのため、「子育てサポーター」を育成する。	598	488	登録者数 1,549人 うち子育てサポーターリーダー登録者数 165人	子育てサポーター養成講座の実施	実施	実施	子育てサポーター登録者数 子育てサポーターリーダー登録者数	1,493人 208人	1,549人 165人	b:順調	子育てサポーターリーダー登録者数は減少となったが、子育てサポーター登録者数は前年度を上回ったので概ね「順調」と判断した。 (令和5年度は子育てサポーターリーダー研修を実施し、新たに22名が登録した。)	子育てサポーター養成後、実際の活動につながるよう、子育てサポーターが活躍できる講座の開講や活動の場の提供、フォローアップ研修の充実を図る。
	②	38	住民主体の地域づくりの促進	総務市民局 地域振興課	地域コミュニティの重要性の理解促進を図ることを目的とした各種事業を通じて、住民主体の地域づくりを促進する。	560	652	地域づくり活動への参加者の割合 目標50% 実績29.7% 達成率59.4%	まちづくり専門家派遣事業を利用したまちづくり協議会の割合	20.0%	25.0%	地域づくり活動への参加者の割合	29.2%	29.7%	b:順調	「まちづくり専門家派遣事業を利用したまちづくり協議会の割合」は25.0%、「地域づくり活動への参加者の割合」は29.7%であり、いずれもR4年度の実績を上回っているため「順調」と判断。	まちづくり協議会等の地域団体に地域課題解決に主体的に取り組んで頂くため、まちづくり専門家派遣制度の活用など、地域の実情やニーズに応じた支援を行う。
	②	39	地域力アップセミナー	総務市民局 生涯学習総合センター	地域への帰属感や連帯感を共有でき、学んだ成果を地域で活かすことができる人材の育成を目的としており、受講生が自ら学習し、主体的に関わることで地域づくりを実践的に学ぶ講座となっている。	4,229の一部	2,936の一部	全10回（毎回5時間）実施。大学教授、企業、NPO法人の代表者による講義、事例紹介等での学びと、グループワークによる課題解決のための企画、最終回には報告会を実施した。	受講者数	16名	17名	受講者の満足度	100.0%	91.7%	b:順調	受講者数は1名の微増であった。なお、受講者の満足度は下がったものの、90%以上と高い水準を維持できているため「順調」と判断。	H23年から続く「まちづくり・人材育成」の中心的な講座である。受講者数が伸び悩んでいるため、開催日時等を再考し、現役世代が受講しやすくなるよう検討していく。
	②	40	健康づくり推進員養成・活動支援事業	保健福祉局 認知症支援・介護予防課	市民主体の健康づくりを推進するため、地域における健康づくり活動のリーダーの育成を行う。	3,963	3,884	予定通り養成研修を実施することができた。また、地域での健康づくり推進員の活動を適宜支援することができた。	養成研修の受講者数	28人	25人	健康づくり推進員が関わる活動への参加者数の増加	260,576人	263,068人	b:順調	健康づくり推進員養成研修のほか、ステップアップ研修・スキルアップ研修を実施することができた。地域での健康づくり・介護予防の取り組みを安全に継続することができたため「順調」と判断。	健康づくり・介護予防活動を安全に継続できるようにする。今年度はオーラルヘルスに関する活動を強化していく。
	②	41	生涯学習指導者育成セミナー	総務市民局 生涯学習課	地域課題に対する地域福祉活動、まちづくり推進活動、子育て活動などに総合的に取り組める、生涯学習を推進するための人材育成を目指す。	750	750	市民の力を活用したまちづくりや生涯学習を推進するための人材育成を目的に高度かつ専門的な地域・技術の習得に向けた研修を実施した。 受講者数 13名	生涯学習指導者育成セミナーの実施	実施	実施	生涯学習指導者育成セミナー修了率	100.0%	100.0%	b:順調	生涯学習指導者育成セミナー修了率がR4年度に引き続き100%であったため、「順調」と判断。	本市の生涯学習の取り組みや受講者の声を踏まえ、実施回数の見直しや内容の充実を図る。
	②	42	地域における女性リーダー育成セミナー (旧・女性リーダー国内研修)	総務市民局 生涯学習総合センター	市内で活動している女性や学習グループのリーダー、今後リーダーとして活動しようとする意欲のある人を先進他都市等に派遣し、生涯学習活動に必要な専門的知識や技術についての学習を深め、地域活動の中心となる人材の育成及びスキルアップを図る。	138	101	R5年度から事業名を変更、それに伴い講師や視察等研修内容を見直し、受講要件を緩和し広く公募制とした。11名の受講者をテーマに応じて3班に分け、報告会を実施した。	国内研修応募者数	2名→中止	11名	研修参加者の満足度	—	100.0%	b:順調	研修内容の見直しを行った初年度であったが、多くの受講生が集まり、予定していたグループ研修も3つのテーマで行うことができたため「順調」と判断。	地域や関係団体等からの受講生の推薦によるフォーマル化された研修からやり方を変更したため、今後も安定的に受講者が集まる保証はない。広報のあり方を含め、工夫していく。

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

			← 計 画 →				← 実 績 →								← 評 価 ・ 方 向 性 →		
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 (千円)	R5年度 決算額 (千円)	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
										実績値	実績値		実績値	実績値			
(2)「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成 ①「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成	①	43	社会教育・生涯学習関係職員研修の充実	総務市民局生涯学習課	社会教育施設や市民センター、地域における学習・交流の機会の提供は、現代的・社会的課題の解決に向けてますます重要になってくる。 今後もこれらの施設で、多様かつ有効な生涯学習事業等を推進することができるよう、関係する職員等の研修の充実を図る。	640	434	・市民センター館長研修 開催回数9回 ・市民センター職員等研修会 開催回数1回	市民センター職員等研修会参加者数	235人	234人	参加者の満足度	98.9%	91.00%	b:順調	市民センター館長研修は、R4年度に比べ、2回多く研修を企画・実施することができた。 市民センター職員等研修会では、参加者数が昨年度と概ね同じであったため「順調」と判断。	引き続き、研修の中で、社会教育・生涯学習事業に関する事例発表や市民センター館長同士、職員同士の情報交換を行う機会を設ける。
	①	44	生涯学習推進コーディネーター配置事業	総務市民局生涯学習課	全市の生涯学習推進コーディネーターが一堂に会し、意見交換や情報交換を行い、交流を深めることで、より地域の学びと活動を活性化する専門人材となるよう研修会を実施する。	6,052	2,501	研修実施 登録者数 48名 市民センターへの配置割合 36.9%	生涯学習推進コーディネーター研修会の実施	100.0%	100.00%	生涯学習推進コーディネーターの配置割合	36.9%	36.9%	c:やや遅れ	生涯学習推進コーディネーターの市民センターにおける配置割合が、R4年度に引き続き36.9%であったが、令和3年度と比べ13.9%減少しているため「やや遅れ」と判断した。	生涯学習推進コーディネーター配置の意義、効果に加え、人材の見つけ方などを市民センター館長に社会教育主事等が助言しながら、配置割合の増加に向けて取り組む。 また、生涯学習推進コーディネーターを地域の人材として育成するための研修を実施し、研修で学んだ内容を実践につなげられるように支援を行う。
	①	45	地域学校協働活動推進員（地域学校協働活動事業）	教育委員会次世代教育推進課	地域等と学校とのパイプ役として、学校の要望に応じて、スクールヘルパー等の人材を発掘し、「地域学校協働活動」を推進する。	45,554の一部	22,540の一部	62校区において地域や学校の実態に応じた様々な活動を実施。	学校支援地域本部設置中学校区数	62校区	62校区	各実施校から得られた教育的効果	48校	52校	a:大変順調	地域学校協同活動実施校に対して行ったアンケートの結果、「教育的効果が得られた」と回答した学校の割合が目標を上回ったため「大変順調」と判断。	地域学校協働活動推進員への研修を行い、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

1 全体評価

令和4年度	令和5年度	
B 順調	B 順調	(1) 指標の「『住んでいる地域や北九州市が好き』と回答した児童生徒の割合」は約9割となっている。「『人の役に立つ人間になりたい』と思う児童生徒の割合」は、全国平均と同程度となっている。 (2) 「『活動を通じて、仲間や友人ができた』と回答した人の割合」は、36.4%と前年度比9.7ポイント増えたが、R元年度の45.4%を下回っている。 (3) 「地域・子ども交流事業参加者数」は、前年度比から6,937人の増加となった。 (4) 「『地域の行事に参加する』という児童生徒の割合」は、中3は全国平均を上回ったが、小6は、全国平均を下回った。 「『子育てに関する悩みや不安を感じる』と回答した保護者の割合」は、現状値から増加傾向にある。 (5) モニタリング項目を見ると、スポーツやボランティアに関係する活動が増加している。 (6) 事業評価表の個別事業については、地域・家庭・学校が連携して実施する事業は、概ね「大変順調」である。 子どもたちの地域に対する愛着や社会貢献への意欲の高さ、生涯学習活動への参加状況から、総体的には「B 順調」とした。今後も、活動や人とのつながりに発展するよう事業を推進する。

2 指標等

◎指標				現状値	参考					目標
R4 評価	R5 評価	指標		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
D	D	「活動を通じて、仲間や友人ができた」と回答した人の割合 《市政モニターアンケート》	参考値			48.3%	51.2%	54.1%	57.1%	60%
			実績	45.4%	48.5%	37.7%	26.7%	36.4%		
			達成率			78.1%	52.1%	67.3%		
A	A	「住んでいる地域や北九州市が好き」と回答した児童生徒の割合 《北九州市学力状況調査》	小5	参考値		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上
				実績	89.7%	91.1%	92.6%	93.9%	94.3%	
				達成率			101.6%	101.4%	100.4%	
			中2	参考値		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	
				実績	87.3%	85.7%	88.7%	89.3%	89.3%	
				達成率			103.5%	101.9%	100.0%	
A	B	「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	参考値		全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上
				実績	94.4%	—	95.4%	95.1%	95.7%	
				国(実績)	95.2%	—	95.5%	95.1%	95.9%	
				達成率			99.9%	100.0%	99.8%	
			中3	参考値		全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	全国平均以上	
				実績	94.5%	—	95.3%	94.9%	94.4%	
				国(実績)	94.3%	—	95.0%	95.0%	94.6%	
				達成率			100.3%	99.9%	99.8%	

R4 評価	R5 評価	指標			現状値	参考	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標
					R元年度	R2年度						
B	B	「地域の行事に参加する」 という児童生徒の割合 《全国学力・学習状況調査》	小6	参考値			全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	
				実績	71.9%	—	59.7%	50.5%	49.8%			
				国 (実績)	68.0%	—	58.1%	52.7%	57.8%			
				達成率			102.8%	95.8%	86.2%			
			中3	参考値			全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上	全国平均 以上		
				実績	59.2%	—	46.4%	35.4%	39.0%			
				国 (実績)	50.6%	—	43.7%	40.0%	38.0%			
				達成率			106.2%	88.5%	102.6%			
C	C	「子育てに関する悩みや 不安を感じる」と回答 した保護者の割合 《元気発進！子どもプラン（第 3次計画）」点検・評価に伴う 市民アンケート》	就学前 児童	参考値			現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	
				実績	35.50%	40.9%	41.0%	44.3%	44.4%			
				達成率			86.6%	80.1%	80.0%			
			小学生	参考値			現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下		
				実績	41.6%	39.6%	44.4%	47.6%	50.8%			
				達成率			93.7%	87.4%	81.9%			
			中・ 高生	参考値			現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下	現状値 以下		
				実績	40.2%	43.6%	43.5%	53.8%	44.7%			
				達成率			92.4%	74.7%	89.9%			
A	A	地域・子ども交流事業 参加者数（人） 《所管課集計》		参考値			前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	前年度 以上	
				実績	55,370	14,390	19,538	33,361	40,298			
				達成率			135.8%	170.7%	120.8%			

A：大変順調（100%以上）

B：順調（90%以上）

C：やや遅れ（70%以上）

D：遅れ（70%未満）

◎モニタリング項目

全13項目中  7項目  4項目  0項目  2項目

R4 推移	R5 推移	モニタリング項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
—		○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	2回		
—		○文化財に関する一般向け・子ども向け講座の参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	34人		
—	—	○文化財に関する小学校等への出前講座開催回数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	0		
—	—	○文化財に関する小学校等への出前参加人数	コロナにより中止	コロナにより中止	コロナにより中止	0		
		○各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	428人	262人	1,867人	2,639人		
		○スポーツ観戦率	15.2%	14.9%	19.9%	22.90%		
→		○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合	調査中止	小6：92.0% 中3：90.9%	小6：91.3% 中3：89.7%	小6：89.6% 中3：88.1%		
		○家庭教育学級長向けアンケート満足度	調査中止	71.7%	91.0%	86.0%		
		○コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員に参画している地域関係者の人数	市型622人	市型846人 国型17人	市型982人 国型71人	市型983人 国型67人		
		○地域学校協働活動事業の実施校において、教育的効果があったと回答した学校の数	33校	39校	48校	52校		
		○青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	2,329人	2,973人	3,852人	3,983人		
—		○新科学館の入館者数	実績なし	実績なし	510,063人	398,883人		
		○地域・子ども交流事業開催回数	818回	818回	1,530回	1,777回		

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

			計 画				実 績								評 価 ・ 方 向 性		
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 (千円)	R5年度 決算額 (千円)	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
										実績値	実績値		実績値	実績値			
(1)「学び」と「活動」による仲間づくり ①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり	①	46	家庭教育学級の充実	総務市民局 生涯学習課	家庭の教育力の向上をめざし、保護者が家庭で子どもの教育をする心構えや、子どもとの接し方、教育上の留意点などを相互学習の中で主体的に学習する場として開設する。	3,362	1,546	市立幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校 195 私立幼稚園、保育園 50 直営保育園 12 合計257	家庭教育学級の 実施	243回	257回	家庭教育学級 参加者数	15,270人	16,688人	a:大変順調	実施数、参加者数共にR4年度を超えたので、「大変順調」と判断。	子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、家庭教育を充実させるため、市民センターが主体となって家庭教育学級を実施・運営していく方法等について、関係者から意見を聞きながら、引き続き検討していく。 家庭教育学級に参加できない保護者への取組として、引き続き、家庭教育力の向上や子育て支援につながる動画をインターネットで配信し、情報提供を行う。
(2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り ①シビックプライドの醸成（地域文化、生涯スポーツ）	①-1	48	伝統文化の発掘・継承	都市ブランド創造局 文化企画課	指定無形民俗文化財保存団体の継承・保存活動を育成・支援する。	1,127の一部	1,077	指定無形民俗文化財保存団体(15団体)に対して補助金を交付した。	指定無形民俗文化財の保護を目的とした保護団体との協議	16回	16回	指定無形民俗文化財 保存支援団体数	14団体	15団体	b:順調	保存団体への周知と適切な協議を行い、前年度より1団体多い15団体へ補助金を交付することができたため「順調」と判断。	市内の指定文化財について、その保存・継承と普及・啓発を支援するため、相談体制の維持と活動に関する補助金を交付している。引き続き、文化財の保存・活用に努める。
	①-1	49	文化財の保存・継承	都市ブランド創造局 文化企画課	文化財の指定等にかかる諮問機関の運営等、文化財の保護、適切な管理のための取組みを推進する。	1,000の一部	208	文化財保護審議会を開催し、市指定文化財が1件増となった。	文化財指定及び、文化財の保存修理に向けた調査・協議	実施	実施	文化財保護審議会の開催	1回	1回	b:順調	文化財保護審議会を実施し、指定文化財の答申を受けることができたため「順調」と判断。	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を実施し、市内の文化財を保護・活用していく。
	①-1	50	博物館セカンドスクール事業	都市ブランド創造局 自然史・歴史博物館	いのちのたび博物館を「第2の学校（教室）」と位置づけ、博物館への誘致事業・学校教育支援事業・家庭教育支援事業の3つの柱をかけ、学校教育現場と博物館の結びつきの強化を図る。	1,143	1,351	県外の旅行社を訪問するなど、積極的な誘致活動を行った結果、学校団体誘致数が増加した。 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、入館制限がなくなったことから、学校関係者入館者数が増加した。 教員研修や各種団体が行うワークショップイベントへのブース出展をするなど広報活動を行った。 オンラインを活用した学校教育との連携事業を実施した。	学校団体 誘致活動回数	107回	85回	学校団体誘致数	707団体	903団体	a. 大変順調	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、入館制限がなくなったことから、学校団体誘致数、学校関係入館者数ともに著しく増加したため。 また、オンラインを活用した学校教育との連携事業の実施や教員研修、広報に資するワークショップイベントへのブース出展をすることで、集客・誘致に資することができたため「大変順調」と判断。	オンラインを活用し、学校教育との連携を深め、より一層の支援の推進を図る。 イベント等の実施や研修対象の拡充等の集客・誘致に資する活動の充実を図る。
	①-2	51	生涯スポーツ振興事業 （旧地域スポーツ振興事業）	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。	15,845	14,917	7区で実施。全33事業。 天候などで中止となった事業あり。	各区におけるスポーツ行事の開催数 （定期的な開催）	26回	33回	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	1,867人	2,639人	c:やや遅れ	R4年度と比較すると、開催行事数・参加者数ともに回復傾向にあるものの、従来通り回復していないため「やや遅れ」と判断。	各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施する。
	①-2	52	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	子どもたちをはじめ地域の住民が誰でも、どこでも、いつでもスポーツを楽しむことができるよう、総合型スポーツクラブへの育成・支援を行う。	2,496	2,496	ニュースポーツ交流大会、各区のクラブでの教室開催	交流行事や勉強会の定期的な開催	一部開催	23回	総合型地域スポーツクラブの会員数	1,718人	1,550人	c:やや遅れ	会員数は減少しているが、引き続き連絡協議会の開催やニュースポーツ交流大会の開催を行っており、目標に及ばずとも達成傾向にあるため「やや遅れ」と判断。	クラブの質を高め、指導者や運営に携わる人材育成に努めるとともに、クラブ間交流事業を実施するなど、会員増加につながる効果的な事業の実施を検討していく。
	①-2	53	北九州マラソン開催事業	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	スポーツの振興やまちのにぎわいづくりを図るため、1万人規模のマラソン大会を開催する。また、全国から参加するランナー等への食のおもてなしやコース沿いに位置する観光資源を通して、本市の魅力をPRし、シビックプライドの醸成を図る。	88,040	87,893	R5年度に開催した2024大会は新型コロナ禍明けの大会として、2020大会をベースに、ランナーサービスやおもてなしフードを拡充して開催した。	市民のスポーツ・健康に対する意識の向上	継続的に実施	継続的に実施	インターネットでのマラソン大会全国評価ランキング（参加者7,000人以上の大会を対象）	上位10位圏外	8位	b:順調	コロナ禍明けの大会として第11回大会を開催し、ランナーのおもてなし等をコロナ禍前の大会水準に戻せたこともあり、「マラソン大会全国評価ランキング」では8位を獲得できたため「順調」と判断。	引き続き安全・安心な実施を目指すとともに、積極的かつ時代に沿った広報を行い、幅広い世代での認知度の向上を図る。
	①-2	54	ホームタウン推進事業	都市ブランド創造局 スポーツ振興課	本市をホームタウン・準ホームタウン等とする、トップスポーツチーム等の市民観戦事業や体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	68,000	50,986	本市をホームタウン・準ホームタウンとする、トップスポーツの市民観戦事業や体験教室の開催など、市民がスポーツに親しむきっかけ作りを実施。	ギラヴァンツ北九州等のホームゲームの招待事業の実施	継続的に実施	継続的に実施	スポーツ観戦率	19.9%	22.9%	c:やや遅れ	市民がスポーツを見る機会の増加を推進する招待事業等に積極的に取り組んだものの、親子招待事業等による観戦者数や、スポーツ観戦率が目標に届かなかったため「やや遅れ」と判断。	今後も北九州スタジアムをはじめとする各スポーツ施設を活用した「見る」スポーツの更なる振興を図ることで、市民のスポーツ観戦率の向上に取り組んでいく。

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

			← 計 画 →				← 実 績 →								← 評 価 ・ 方 向 性 →		
具体的な施策	取組	番号	事務事業	所管課	概要（目的）	R5年度 予算額 (千円)	R5年度 決算額 (千円)	令和5年度実績・実施状況	活動指標	R4年度	R5年度	成果指標	R4年度	R5年度	R5年度 進捗 状況	進捗状況の評価理由	今後の方向性
										実績値	実績値		実績値	実績値			
(3) 学校と家庭・地域が つながる教育力の向上 ①家庭教育支援の充実 ②家庭・地域・学校の 連携促進 ③地域における子ども たちの発達・育成を 促す環境づくりと 体験活動の推進	①	55	親力アップ情報発信	総務市民局 生涯学習課	核家族化や共働き世帯など、子どもや家庭を取り巻く環境の変化に合わせて、いつでもどこでも家庭教育の役立つ情報が得られるよう、子育て支援につながる情報提供を行う。	1,190	1,331	WEB漫画2本製作 動画広告				アクセス件数	8,032件	7,390件	b:順調	成果指標であるアクセス件数は前年度に届かなかったが、新作漫画を2本製作し、動画広告でPRを図ったため、概ね「順調」と判断。 また、新たなテーマを追加し、家庭教育力の更なる工場を図る。	家庭などに課題を抱え、子育て支援が必要なより多くの保護者へ情報が届くよう、PR方法に力をいれる。
	②	56	コミュニティ・スクール事業	教育委員会 次世代教育推進課	学校運営及び学校運営に必要な支援に関して協議する「学校運営協議会」を設置、地域住民が学校運営への参画を促進し、学校と地域との連携を促進し、「地域とともにある学校づくり」を進める。	45,554の一部	22,540の一部	市型CS：188校 国型CS：13校	学校運営協議会の設置数（市型、国型）	市型 188校 国型 13校	市型 188校 国型 13校				a:大変順調	全校でコミュニティ・スクールを設置し、学校運営協議会を実施できたため「大変順調」と判断。	学校と地域との更なる連携を促進し、円滑な運営を進めていく。
	③	57	地域で育もう「未来の種」事業～市民太陽光発電所・市民還元事業～ 【R5事業終了】	総務市民局 生涯学習課	地域づくりの未来の担い手である子どもたちの健全な発達・育成に向けて、市民センターが中心となって、まちづくり協議会などの地域団体、子育て支援団体、NPO、企業などと協働で、世代間交流・体験活動を実施する。	3,000	2,266	実施数 19館 参加人数 のべ3,686人				参加者数	3,579人	3,686人	a:大変順調	成果指標である参加者数が前年度を超えたため、「大変順調」と判断。	事業はR5年度で終了となった。 (R3年度から3年間) 事業を実施したセンターでは、そのノウハウを生かして市民講座等の実施に継続して取り組む。
	③	58	地域学校協働活動事業	教育委員会 次世代教育推進課	多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、また、活動を通じて地域社会全体の教育力の向上を図り、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。	45,554の一部	22,540の一部	62校区において地域や学校の実態に応じた様々な活動を実施。	学校支援地域本部設置中学校区数	62校区	62校区	各実施校から得られた教育的効果	48校	52校	a:大変順調	地域学校協同活動実施校に対して行ったアンケートの結果、「教育的効果が得られた」と回答した学校の割合が目標を上回ったため「大変順調」と判断。	地域学校協働活動推進員への研修を行い、地域全体で子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動を推進する。
	③	59	青少年ボランティアステーション推進事業	子ども家庭局 こども若者育成課	青少年の成長に欠かすことのできない様々な体験活動等を通じ、青少年が社会の構成員として規範意識や社会性、協調性等を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年の体験活動を支援、促進する。	1,462	1,405	コロナ禍の収束により活動数が増加してきた。ボランティア募集情報をホームページ発信していることの周知を徹底することにより事務の効率化と経費の節減を図った。	「ボランティア出前事業」参加児童数・生徒数	85人	83人	青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数	3,852人	3,983人	b:順調	新型コロナウイルス感染症の5類化によりイベント数が増加するとともに募集依頼が増加。さらにホームページの充実や「夏のボランティア体験」募集チラシの市内全児童・生徒配布により、新規申請者が増加しているため「順調」と判断。 随時募集している一般ボランティアのホームページを活用した募集だけでなく「夏のボランティア体験」募集チラシの全児童・生徒配布を継続し、ボランティア活動についての認知を高めるとともに意識を高めていく。また、増加してきつつある募集依頼には丁寧に対応することにより幅広い内容のボランティア活動を提供し、北九州市の青少年のより豊かな人間性を育んでいくことを目指していく。	

生涯学習推進計画関連事業費 予算決算比較【令和5年度】

(単位:千円)

		R5予算【A】	R5決算【B】	不用額【A－B】
柱1	事業費	5,560,335	5,421,400	138,935
	内、主要施策	1,058,617	1,039,638	18,979
柱2	事業費	166,491	165,909	582
	内、主要施策	91,929	86,492	5,437
柱3	事業費	634,539	534,551	99,988
	内、主要施策	184,538	165,476	19,062
計	総事業費	6,361,365	6,121,860	239,505
	内、主要施策	1,335,084	1,291,606	43,478

生涯学習推進計画関連事業費 決算決算比較【令和4・5年度】

(単位:千円)

		R4決算【a】	R5決算【b】	増減【b－a】
柱1	事業費	5,203,526	5,421,400	217,874
	内、主要施策	951,379	1,039,638	88,259
柱2	事業費	169,547	165,909	-3,638
	内、主要施策	91,333	86,492	-4,841
柱3	事業費	562,181	534,551	-27,630
	内、主要施策	205,006	165,476	-39,530
計	総事業費	5,935,254	6,121,860	186,606
	内、主要施策	1,247,718	1,291,606	43,888

※事業費については、一部計上となっているものを除く。

次期
北九州市生涯学習推進計画
について

次期北九州市生涯学習推進計画の策定について

(1) 計画の位置付け

- 北九州市基本構想・基本計画の部門計画の1つです。
- 教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体が定める「教育の振興のための施策に関する基本的な計画」として位置付けています。

(2) 計画期間

令和8年度～令和12年度の5年間

(3) 計画の対象

主に「社会教育」「家庭教育」分野

(4) 策定作業

- ・ 社会教育委員会議を中心に次期計画の策定に向けた議論を行います。
- ・ 次期計画策定に係る社会教育団体等へのヒアリングの実施を予定しています。
- ・ 学識者による有識者会議の開催を予定しています。

(5) 策定スケジュール

時 期	項 目
令和6年11月	令和6年度 第2回社会教育委員会議 計画策定に向けて意見交換
令和7年2月	令和6年度 第3回社会教育委員会議 第2回意見交換を踏まえた整理
令和7年5月	令和7年度 第1回社会教育委員会議 次期計画のたたき台に関する議論
令和7年8月	令和7年度 第2回社会教育委員会議 次期計画の素案に関する議論
令和7年9月	常任委員会報告
令和7年11月	パブリックコメント
令和8年2月	令和7年度 第3回社会教育委員会議 次期計画の最終案に関する議論
令和8年3月	常任委員会報告
令和8年4月	教育委員会議報告
令和8年6月	議会報告

社会教育委員会議でのグループワーク(案)＜60分間＞

- ・社会教育委員を3グループに分けて、以下の流れでグループワークを実施。
- ・グループワークの内容は次期生涯学習推進計画のキーワードを考える。
- ・全体進行は生涯学習課、グループ内の進行・進行補佐は社会教育主事が務める。

No.	作業等	担当	時間
1	生涯学習・社会教育に関する説明	生涯学習課より生涯学習・社会教育に関する説明を行う	10分
2	グループワーク①	1. 次期推進計画のキーワードを挙げる（付箋に記入） 2. グループ内で記入したキーワードとキーワードを挙げた理由をシェア	17分
3	グループワーク②	1. グループ移動（グループ内で別のグループに移動する人、グループに残る人を決める、最低1名がグループに残る） 2. 移動後のグループで、それぞれのグループで出たキーワードやその理由をシェア	12分
4	グループワーク③	最初のグループに戻り、他のグループのキーワードも参考にしながら、改めてキーワードを整理し、グループで重要と考えるキーワードを整理する	12分
5	キーワードの共有	各グループの社会教育主事から重要と考えるキーワード発表	9分

令和6年11月7日 社会教育委員会議

次期生涯学習推進計画の策定へ向けて

生涯学習・社会教育を取り巻く社会変化

- ①VUCAの時代の到来**
- ②ウェルビーイングの実現**
- ③持続的な地域コミュニティづくり**

① VUCA の時代の到来

不確実性が高く、将来が見通せない時代

コロナウイルスの蔓延、災害、軍事衝突

AIやその他のテクノロジーの急速な進歩…

今後5年間で約4分の1の仕事が変化

2027年までに約6,900万人分の雇用が創出、
8,300万人分の雇用が消滅、約2%が純減



早まる知識・技能の陳腐化、知識・技能の相対的価値の低下



年齢を問わず常に学びを通じて

幅広い知識と柔軟な思考力を更新しつづける必要性

リカレント教育
リスキリング

【世界経済フォーラム「仕事の未来レポート2020」】

- 自動化、機械の分業により、世界中で今後2025年までに
8,500万人の仕事がなくなり、新たに9,700万人の仕事が生まれる
- 「ピープル・スキル」（他人に対していかに愛情をもって接するための、①傾聴スキル、②自己主張スキル、③対立解消スキル）を活かしたポジションの需要が高まる
- 将来最も競争力の高い企業として生き残るための条件は、
現在の従業員のリスクリング（再訓練）やスキル向上への投資となる

【世界経済フォーラム「仕事の未来レポート2023」】

- 今後5年間で約4分の1の仕事が変化すると予測
- 2027年までに約6,900万人分の雇用が創出される一方、8,300万人分の雇用が消滅する
- その結果、現在の雇用の約2%が純減する

リカレント教育

学校教育から離れた後も、必要なタイミングで再び教育を受け、就労と教育のサイクルを繰り返すこと。生涯にわたって学びと労働を循環（recurrent）すること。

25歳以上の「学士」過程への入学者割合を見ると、日本の割合は非常に低く（諸外国平均が20%に対して日本は2%）、大学・大学院の正規課程で学んでいる社会人の割合が低いと考えられる。

その原因としては、企業の意識・制度、日本人の働き方、大学等のプログラム開発などが挙げられている。

リスキリング

新しい仕事のために必要となる知識・スキルの習得すること。主に社内研修や短期的な講座受講を通じて行われる。

特に日本の場合は、IT（情報技術）・AI（人工知能）の人材不足の観点から、リスキリングによる人材育成の必要性が指摘されており、国においても助成金や給付金の支給、プログラム開発支援、専門人材の派遣等に取り組まれている。

② ウェルビーイングの実現

- ・ ウェルビーイング = 心身ともに満たされた状態のこと
- ・ 個人の「幸福」 + 周囲の「場」が良い状態

生涯学習（ボランティアや趣味など）を通じた
人と人との繋がり作り、自己実現



個人の幸せ、良好な人とのつながり・関係性



ウェルビーイングの実現

『富』や『名声』ではなく、『良い人間関係を築くこと』

それこそがもっとも大きな幸せの要因

ハーバード大学

「ハーバード成人発達研究」

何が人々の幸せで健康な暮らしにつながるのか？

(2000人を超える人たちを80年にわたって追跡調査)



健康で幸福な人生を送るのに必要なのは

『富』や『名声』ではなく、『良い人間関係を築くこと』

それこそがもっとも大きな幸せの要因

慶應義塾大学大学院 前野隆司先生

「 幸 せ の 4 因 子 」

幸せに生きるために必要な姿勢や考え方を「幸せの4因子」として整理

- ①「やってみよう」因子 → **自己実現と成長**の因子
- ②「ありがとう」因子 → **つながりと感謝**の因子
- ③「なんとかなる」因子 → **前向きと楽観**の因子
- ④「ありのままに」因子 → **独立と自分らしさ**の因子



生涯学習・社会教育活動は、
学びや活動を通じた**「自己実現と成長」**や**「つながりと感謝」**といった
幸せの因子との関連性が深い

③ 持続的な地域コミュニティづくり

単身世帯数の増加
自治会・町内会の加入率の低下

地域コミュニティの希薄化

家族以外の人と全くまたはめったに
付き合わない人の割合 先進38カ国中トップ

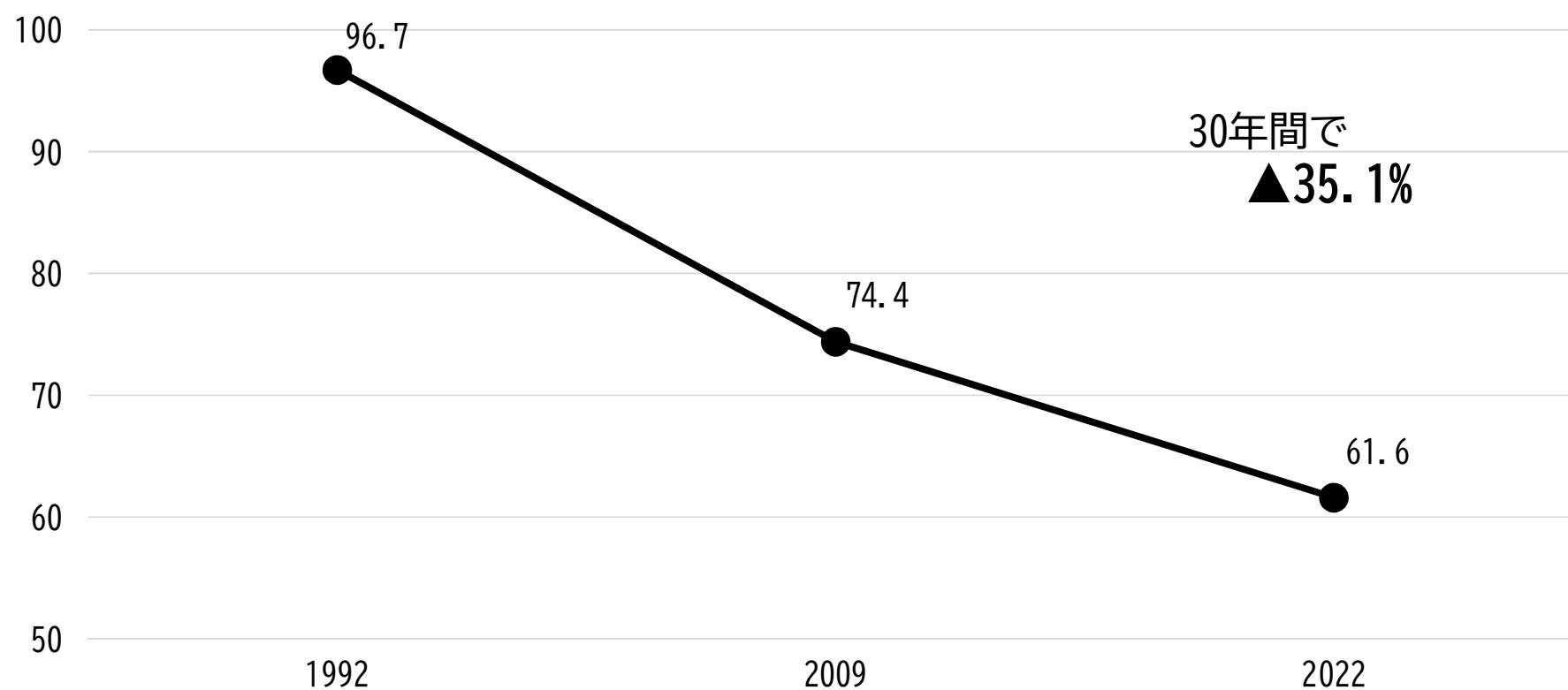
20代で孤独を感じている人の割合：47%

孤立化（つながりが少ない状態）・孤独化（主観的な感情）
共助の衰退（自助・自己責任の拡大）

学びや様々な活動を通じた
人と人との 繋がり作り、地域づくりの重要性

※資料のみ

北九州市の自治会加入率



「孤立」・・・客観的に見て他者とのつながりが少ない**「状態」**

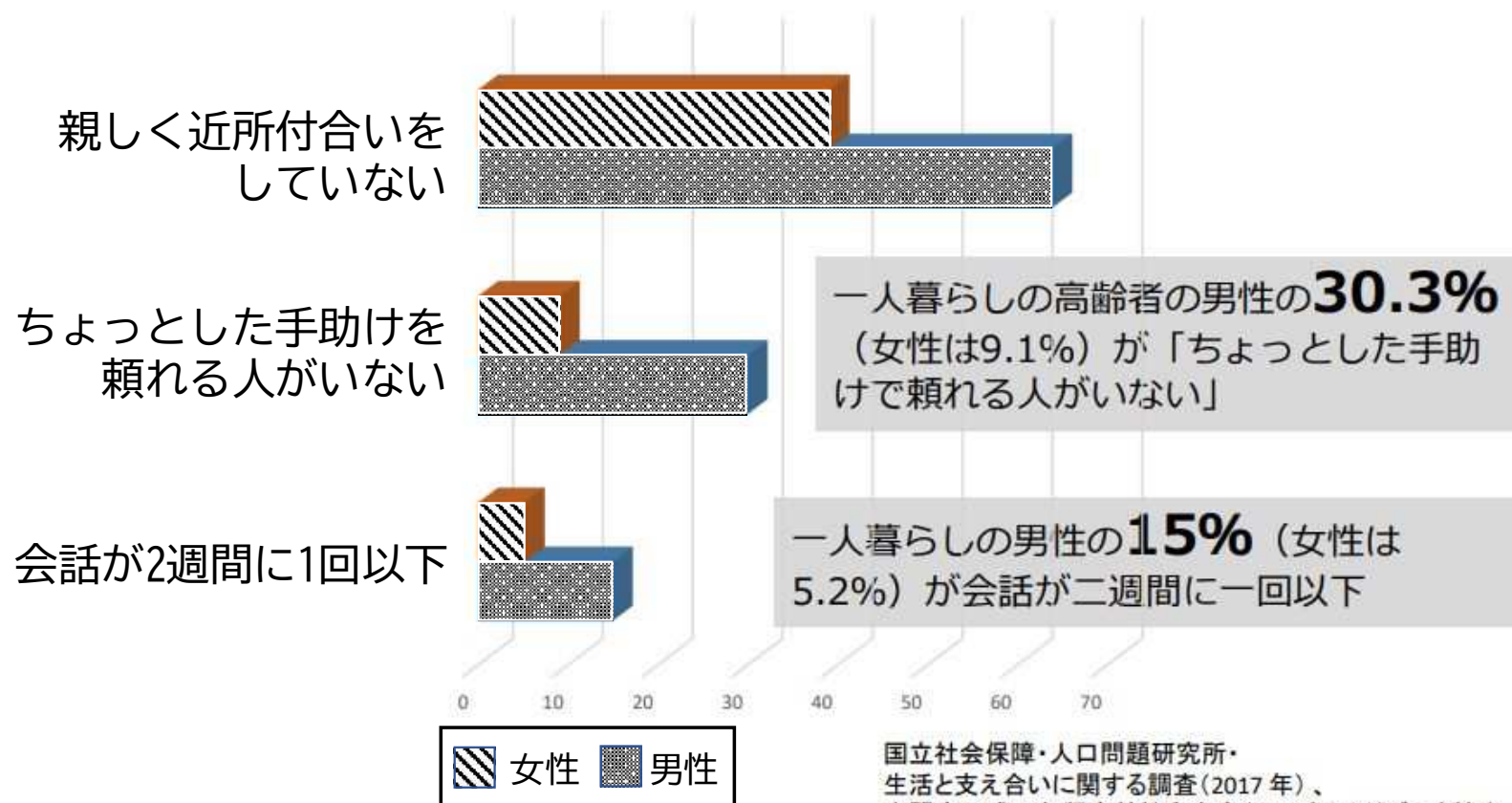
孤立しやすい人の特徴は「男性」や「高齢」

「孤独」・・・寂しいというような主観的な**「感情」**

孤独を感じやすいのは「女性」や「若者」

※孤独を感じている人は孤立していることが多く、孤立している人は孤独を抱えやすい

一人暮らしの高齢者の孤独度



国立社会保障・人口問題研究所・
生活と支え合いに関する調査(2017年)、
内閣府平成26年版高齢社会白書(2014年)よりデータ抽出

死亡リスクの比較

孤立

社会との
つながりが
少ない

約1.9倍

喫煙

約1.6倍

過度の飲酒

約1.4倍

肥満

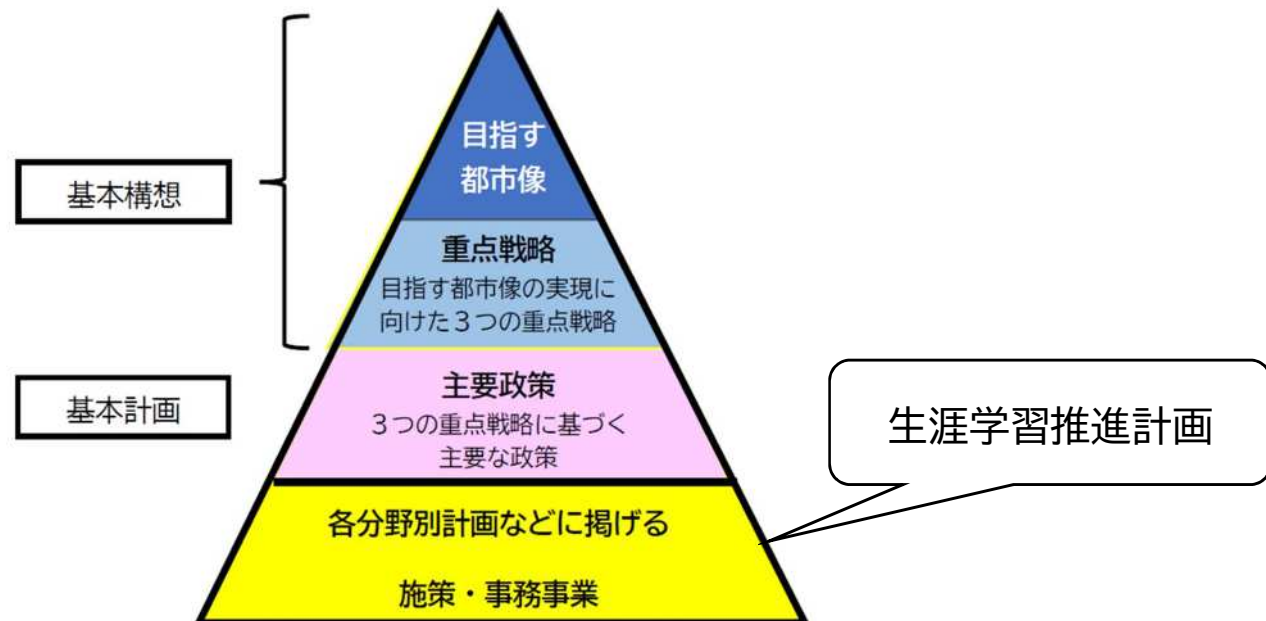
約1.2倍

Holt-Lunstad J, Smith TB, Layton JB (2010) Social Relationships and Mortality Risk: A Meta-analytic Review. PLoS Med 7(7): e1000316.

本市の方向性

令和6年3月
北九州市基本構想・基本計画

- 今後の北九州市のまちづくりの方向性を明らかにした「基本構想」
- 基本構想を実現するために、重点的に取り組むべき主要な政策を体系的にとりまとめた「基本計画」



北九州市が目指す都市像

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を体現する

グローバル挑戦都市・北九州市

目指す都市像を実現するための 3つの重点戦略

- I 「稼げるまち」の実現
- II 「彩りあるまち」の実現
- III 「安らぐまち」の実現



新ビジョンの重点戦略



「稼げるまち」

まちの変化・飛躍を時を捉えて、
都市の経済力を高めていく



「彩りあるまち」

年齢や性別、国籍、障害の有無などに
かかわらず、自分らしさを大切にできる、多様な
選択肢があるまちへ



「安らぐまち」

安全・安心な暮らし、お互いを尊重し、
支え合う包摂的で心豊かに
暮らすことができるまちへ

「安らぐまち」の実現

2 暮らしの「安心」を支える

(4) 地域におけるコミュニティ活動などの活性化

地域におけるコミュニティ活動を維持するとともに、時代の変化に伴う多様なニーズに対応した地域づくりを進めるため、社会貢献意識が高い若者やNPO、子育て・現役世代なども地域活動に参加しやすい仕組みの強化に取り組みます。

(5) 生涯現役に向けた健康づくりや社会参加の推進

生涯を通じて健康でいきいきと心豊かに暮らすことができるよう、市民の健康リテラシー（知識）の向上や健診受診・生活習慣の改善などによるヘルスケアを推進します。また、文化芸術・スポーツ活動などの生涯学習や社会参加を促進するとともに、学習活動と地域・ボランティア活動のマッチングも進めます。

国での議論・計画

令和4年8月

第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理

- 生涯学習は、一人一人がより豊かな人生を送ることができるよう、個人の自発的意思に基づいて行うことを基本として、生涯を通じて行うもの。
- 生涯学習は、多様な年代、多彩な属性の他者と共に学ぶことも多く、他者との関係性の中でより豊かな学びにつながるものであるため、ウェルビーイングの実現と密接不可分である。
- 学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生むという社会教育が担ってきた機能が重要視されている点に改めて着目すべき。
- 社会教育の振興は、国・地方公共団体が取り扱うコミュニティ施策による課題解決を支えるという点で重要。
- 未来志向で「こうありたい自分、こうありたい地域の姿」を住民自治の観点から考え、そのために必要な学びとその成果が循環する社会教育を基盤とした地域コミュニティが形成されれば、様々な課題が深刻な問題となる前に地域で解決できることが期待。
- 住民自治を支える社会教育は、持続的な地域コミュニティを形成する、社会全体の基盤である。

令和5年6月 第4期教育振興基本計画(R5～9年度)

- 計画のコンセプトは、将来の予測が困難なVUCAの時代の到来等を背景に「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」。
- 「持続可能な社会の創り手の育成」は、受け身ではなく、自ら持続可能な社会を切り拓いていく人材を育成。
- 「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」は、多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることを目指すもの。
- 生涯学習・社会教育を通じて、地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点も大切。
- 社会教育は、地域住民が共に学ぶものであり、地域コミュニティ形成の営みという性格を強く有している。近年、地域課題の解決に向けて、関係省庁が地域コミュニティに関する政策を提示しているが、これらの政策は地域コミュニティが維持されてこそ機能することから、社会教育が重要となる。
- 計画が目指す社会の実現には、これらの取り組みを推進することで、生涯学習を通じた自己実現、地域や社会への貢献等を通じた当事者としての地域社会の担い手の育成が必要であり、生涯にわたって学び続ける生涯学習社会の実現が不可欠である。

令和6年6月 中央教育審議会社会教育人材部会 社会教育人材の養成及び活躍促進の在り方について

- 社会教育活動をオーガナイズできる社会教育人材が果たす役割は大きく、質的な向上や量的な拡大が必要。
- 社会教育主事、社会教育士の役割はそれぞれ「地域全体の学びのオーガナイザー」、「各分野の専門性を様々な場に活かす学びのオーガナイザー」。

※オーガナイズ：まとめる、整理する、組織する

令和6年6月 第12期中央教育審議会生涯学習分科会における論点の整理

- 目指すべき姿として、「経済的豊かさのみならず精神的な豊かさから幸福や生きがいを捉える『ウェルビーイング』を目指し、誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」
- 今後の方向性として、「デジタル社会への対応」「社会的包摂への対応」「生涯学習社会を実現するための社会教育人材の在り方」「生涯学習を進めるうえで、各学校教育段階で目指すべきもの」「社会人のリカレント教育」を論点として議論。